

2026.5.23 作成

氏 名 稲垣 真輔 (INAGAKI Shinsuke)

所 属 薬学部薬学科

職 種 准教授

生年月日 1975 年

[履 歴]

[学 歴]

1998 年 3 月 岐阜薬科大学 薬学部 厚生薬学科 卒業

2000 年 3 月 岐阜薬科大学大学院 薬学研究科 博士前期課程 修了

2003 年 3 月 岐阜薬科大学大学院 薬学研究科 博士後期課程 修了

[学 位]

2003 年 10 月 博士（薬学） 岐阜薬科大学

[職 歴]

2003 年 11 月 （独）産業技術総合研究所 環境管理技術研究部門 特別研究員

2005 年 9 月 静岡県立大学 薬学部 助教

2007 年 1 月 静岡県立大学 薬学部 講師

2011 年 4 月 （独）産業技術総合研究所 計測標準研究部門 研究員

2013 年 3 月 （独）産業技術総合研究所 計測標準研究部門 主任研究員

2019 年 4 月 （国研）産業技術総合研究所 計量標準総合センター 計量標準普及
センター 総括主幹

2022 年 5 月 青森大学 薬学部 准教授（現在に至る）

[所属学会]

日本薬学会、日本分析化学会、クロマトグラフィー科学会

[教育活動]

[担当科目]

薬学部：分析化学Ⅰ、分析化学Ⅱ、機器分析学、基礎物理化学、日本薬局方概論、
薬学特論Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ、分析化学実習、物理学実習、物理化学実習、
薬学セミナー、卒業研究

全 学：地域貢献演習

[卒業研究指導]

2022 年度 3 名

2023 年度 4 名

2024 年度 5 名

2025 年度 4 名

2026 年度 5 名

[ゼミ指導]

薬学部担任制で1年生2名、2年生1名、3年生2名を指導

[学生支援]

学修支援に関して、希望する学生に対し、分析化学の内容に関する講習会を行っている。学生生活支援に関して、学生委員が実施する毎月のアンケートの結果をもとに、定期的に面談を行っている。

[FD]

分析化学教科担当教員会議や日本薬局方教科担当教員会議などに出席している。授業改善に関して、每期講義終了後に授業改善方策を作成し、それに基づいた対応を行っている。

[教育指導に関する特記事項]

分析化学Ⅰ、分析化学Ⅱ、機器分析学、基礎物理化学、日本薬局方概論においては、講義内容の理解度を高めるため、毎回、問題演習を実施している。

[研究活動]

[研究テーマ]

1. 生体機能性分子の新規分析法の開発
2. クロマトグラフィー用新規誘導体化試薬の開発

[著書、論文、総説]

1. Takashi Yarita, **Shinsuke Inagaki**: Characterization of Diarrhetic Shellfish Toxins in the *Mizuhopecten yessoensis* (Scallop) Midgut Gland by High-Performance Liquid Chromatography-Tandem Mass Spectrometry (HPLC-MS/MS), *Anal. Lett.* 56 (2023) 531-540.
2. **稲垣真輔**, 日本薬局方における容量分析法による医薬品の定量及び水分測定法について, *ぶんせき*, 604 (2025) 92-98.

[学会発表]

1. **稲垣真輔**, 羽成修康: メシチレンを溶媒とした水分分析用標準液中に生成した酸化物の分析とその酸化物がカールフischer滴定法に与える影響, 日本薬学会第142年会, 2022年3月26日, 名古屋.
2. 木原真穂, **稲垣真輔**, 中村圭介, 羽成修康: 水分分析用標準液に用いられるキシレン中の酸化物がカールフischer滴定法に与える影響の評価, 日本分析化学会第74年会, 2025年9月25日, 札幌.
3. 中村北斗, 石川広大, **稲垣真輔**: カルボキシ基を標的としたLC-MS用誘導体化試薬の評価とペブルル酸の分析への応用, 日本薬学会第146年会, 2026年3月28日, 大阪.

[学内各種委員]

卒業研究委員会(委員長)、6年演習委員会、社会連携・イベント・SDGs委員会、

危険物管理委員会、動物実験委員会、付属総合研究所所員、学術研究会評議員